

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500020		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流		
所在地	千葉県流山市古間木313-21		
自己評価作成日	2021年 2月10日	評価結果市町村受理日	2021年 3月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	文書評価(2021年2月)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クララ清流は 1.寝たきりにさせない 2.メリハリをつけた生活リズムの継続 3.持っておられる機能を活かしてできることはご自分で合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスにより、非常事態宣言が発令されるなどホームにとって過酷な対応を余儀なくされた年であった。外部との接触を極度に避けざるを得ず、利用者の運動不活性によるストレスへの対応など平時とは大きく異なるケアが要求される結果となった。高い介護の見識を持った管理者の指導の元、全職員が一丸となって、身体拘束におけるスピーチロックなどが危惧される困難な状況を乗り越えられている。晴れた日の散歩を日課とし、また、リビングでのリクリエーションは制限せず、行事では行事食を用意するなど楽しみを絶やさない取り組みに注力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 株式会社 MOUNT FLOW	人権を尊重すること、持っておられる能力を活かすこと等、管理者の指導によりケアを行うようにしています。	利用者の持つ能力を活かし、メリハリのある生活リズムを継続できるケアに努めている。コロナ禍で運動不活性になりがちな環境の中で、室内でのレクリエーションを重視するなど常に理念に立ち返ったケアのあり方に注力している。	利用者を大切にするという管理者の強い思いが、このコロナ禍の中でホームの安定したサービス提供につながっている。ヒヤリハットなどを当ホームの特質と関連付けて検討し、職員間で共有してレベルの一層の向上を目指していただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩などご近所の方々と顔を合わせ、時にはお話するようにしています。	コロナ禍の中でも晴れた日の散歩は続けており、地域の方とは顔見知りになっている。また、自治会に加入しており、資源リサイクルなどホームとしての地域とのつながりも継続できている。	新型コロナウイルスのために、文書(書面)評価とした。事業所より提出いただいた①自己評価・②追加提出資料・③家族アンケート結果④その他資料を基にメールでの確認も行い実施した評価である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内でコミュニケーションを取りやすい印象を持って頂くように努めている。管理者が個人的に相談を受けることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、会議を出来る状況ではないため、書面での現況報告をしたり、管理者がご家族様と連絡をとっています。	コロナ感染予防のため、年度後半は会議の開催は自粛している。市の関係者や家族にはホームの活動状況や利用者の状況について書面で報告している。市とはコロナ関係の通達や情報交換など緊密な連携がとられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当部署へも現況報告を書面で行っている。	市の介護支援課や東部高齢者何でも相談室(地域包括支援センター)にはホームの現況を書面で報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の適正化委員会を定期的に開き、スタッフ同士でも日々注意しながら取り組んでいます。	外部研修に参加し、見識を深めている。参加者は受け身の受講にとどまらず、自らの日頃の実践と照らし合わせながら介護のプロとしての立場から身体拘束の意義の理解につとめ、適正化委員会など、ホーム内で展開している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、適正化委員会、ミーティング等で学んだことを忘れないよう常に身体チェック等も行っています。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後学んでいきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては説明し、疑問点を確認しながら行っている。改定の際には書面でのご説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での報告の際に、お聞きする機会となっています。ご要望は出来る限り反映するように努めています。	対面での面会ができないことから、家族からは面会の再開や、散歩の様子を見たいとの希望が寄せられている。アンケート調査では職員の対応に対して多くの感謝の言葉がみられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の機会を作っている。聞き取りの機会となっており、大切なことは反映させている。	日常業務の中で意見を聞くほか、ヒヤリハットの記録をもとに、反省点の検討や情報の共有が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件を行いつけている。代表者に相談できる職場だと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者様のケアについて、都度現場でのケアの指導、教育を行っている。新人スタッフへの育成について常に学ばされています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会を活用して、コロナ後に機会を作っていければと思う。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階は特に、傾聴するよう心掛けています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者はそうに行うよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の状況を確認している。体験入居も可能。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に暮らす人生の大先輩として接し、信頼されるよう努力している。ホームと一緒にいつもいるようにと思ってもらえるような話を常にしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ対策のため面会制限があるも、施設だよりや写真をお送りして、絆を保って頂けるように努めている。ご家族でないと行えない分野についてはご協力をお願いしています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望や馴染みの方々の要望に合わせていたいと思っている。	コロナ感染防止のため、面会制限が行われている。ホームでは家族や馴染みの方との関係を維持するため、電話やメール、クララ通信の多彩な写真で近況を伝えている。馴染みの移動美容室のヘアメイクは利用者の楽しみになっている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が接することができる機会や空間を必ず作るようにしています。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も経過のフォロー、求められれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望はできるだけ聞いています。特に入浴時、散歩時に色々お話を聞く機会となっています。	日々の関わりの中で利用者の思いを理解し、その人らしい、生きがいのある生活は何かを把握している。一人ひとりに寄り添い何ができるか、楽しそうなことは何かに気づき、笑顔の接遇に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者がご家族様から得た情報を職員に伝えるようにしています。日常にお話することにより、生活歴や暮らしがわかります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケア記録を書いたり、申し送りで職員で共有しながらケアを行うようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はモニタリングを日々記録し、ご本人のご様子を職員の間で話し合い、ケアマネは現状に即した介護計画を作成している。	日常のケアやモニタリングの記録から得た利用者情報を職員間で話し合い、課題を見つけ介護計画を作成している。定期的に介護計画に対する評価を実施し、一人ひとり新たな課題、目標を見極めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や気づきはきちんと書くようにしています。他の職員と話し合い、反省し、良い方向に持っていけるよう心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナがあるので中々難しいところがあるが、ご要望に合わせて柔軟な支援をしたいと思っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナがあるので以前通りにはいかないが、町内の散歩を行いながら、緑や花を楽しむことは続けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があるが、ご家族やご本人の希望の病院に行って頂くこともある。	協力病院による往診、入居前からのかかりつけ医への受診を選択できる。訪問看護師の健康管理や医療面での相談・助言を受けている。緊急時には医師との連携で24時間オンコールの適切な指示を受けられる。訪問歯科診療と口腔ケアの指導があり医療体制は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師は不在だが、かかりつけ医や訪問看護師にバイタルや様子など細かく伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時も情報の提供や共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	リビングウィルの作成をご家族様に依頼し、状況に応じてご意向の確認をしている。かかりつけ医、訪問看護師とも共有して支援に取り組む方針である。	入居時ホームの出来る支援について説明し方針の共有を図っている。リビングウィルの作成を依頼し、状況に応じて意向の確認をしている。かかりつけ医、訪問看護師とも連携して、ホームでできる最善の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に起こりうることなので、常に初期対応の方法を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に行っている。町内会長との連携は取れている。災害時避難場所も遠くはないが、実際に移動訓練を今後行いたい。	消防署指導の下、年2回式番館と合同で火災避難訓練を行っている。町内会長、地域の消防団の協力が有り、車椅子の方や、歩行困難な方の安全・安心な避難を訓練している。新型コロナ感染症について看護師から講習を受け感染予防に取り組んでいる。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが人生の大先輩で大切な存在であるというホームの理念のもとに常に心掛けている。	一人ひとりが共に暮らす人生の大先輩として接し、信頼されるよう心掛けている。会話はいつも笑顔で、目線を合わせ本人の意思を尊重した支援に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話の中で常に心掛けている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	体操やレクの時間などペースを優先できない時もありますが、それ以外の時間はそれぞれの思い思いに過ごされています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃り、清潔な衣服を着て頂くことはこまめに行うようにしています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、片づけ、特に食器洗い、食器拭きを行って下さっています。	職員手作りの温かな料理が提供されている。旬の食材を使いお正月はおせち、花まつりはちらし寿司などの行事食を楽しみ、お誕生日は全員で祝っている。利用者にも下拵えや片付け、食器洗い、食器拭き等の得意な事を手伝っている。嚥下体操、口腔ケアでいつまでも自分の口で食べられるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、うす味を心掛けている。水分量・食事量はチェック表、ケア記録にて管理をしています。特に水分摂取量は十分摂れるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず口腔ケアを行っています。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながらそれぞれの方の排泄パターンを考えてトイレ誘導するようにしています。	排泄パターンを把握して、声掛けや誘導を一人ひとりの習慣、特徴をつかみ、利用者のもつ機能維持を目標としながら支援している。ADLに応じ、福祉用品を選びラジオ体操や散歩等適度の運動で下肢筋力を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず飲食にて対応するようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、喜んでもらえるよう心掛けて毎回対応しています。	入浴は週2回快適なお風呂を提供している。入浴前にはバイタルチェックや身体の状態を観察し、職員とのコミュニケーションの場ともなっている。季節のゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を整えるため、まめな布団干し・シーツ交換を行っている。日中活動し夜間は眠れるように工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が薬については把握しています。薬が変わった時には連絡ノートにて連絡があり、様子観察をしています。きちんと服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者様に合った役割を願い、張り合いとなっている様子です。毎月、色々な行事に取り組んでいます。日本の春夏秋冬を感じてもらえるよう考えてレクを行うようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩はマスク着用の上、続けている。その他の場所にも、新型コロナが落ち着いたらずに少しずつ取り組んでいきたいと思っています。	天気の良い日の散歩は、コロナ感染予防を徹底し、マスク着用で続けている、ご近所の馴染みの方とは挨拶を交わしている。買い物や行事の外出はウィズコロナとして、家族からの理解をもらった上で継続したいと考えている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は原則、事務所管理となっています。新型コロナが落ち着いたら、希望に合わせてお店に行ったりお金を使えるように支援したいと思います。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人様からご家族様への年賀状、暑中お見舞い状を欠かさず支援しています。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日清掃を行い、今は特に換気を心掛けている。オゾンの脱臭装置も設置している。</p>	<p>オゾン噴霧設備と朝一番窓を開けての空気の入替えは、コロナ感染から利用者を守っている。室内の清掃は利用者と一緒にモップ掛け、消毒と清潔に保たれている。レクリエーション活動は衛生上の配慮をしてできるだけ制限せず楽しんでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者様の様子を見ながら、居場所については工夫しています。気の合った方同士が過ごせるよう席も工夫しています。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具を持ってきて頂くようお願いしています。ご自分の部屋と認識できるように、ご自分の物を見てわかるような所に配置しています。</p>	<p>清潔で落ち着いた部屋は利用者が自分の部屋と分かるよう使い慣れた家具を置いている。できることは自分で、毎朝、窓を開け換気をし、ベットメイキング、消毒を職員と一緒にする等、居心地よい安心安全な環境が作られている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>部屋の入口にそれぞれのネームプレート、トイレとわかるような目印、リビングの座席にはご自分の座布団を置き、目印としています。共有スペースには手すりがあるので使って頂くよう声かけ見守りをしています。</p>		